注意点1 理論

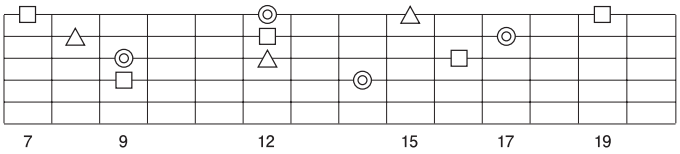
大きくポジション移動するコード・トーンを覚えよう

このメイン・フレーズは、マイケル・シェンカー風の3連符オルタネイト・エクササイズだ。基本的にはトライアドで構成されているが、細かくポジション移動したり、トライアド以外のコード・トーンを組み込んでいたりするので気をつけよう。1&2小節目では、徐々にハイ・ポジションに移動するので、フレーズの流れを理解しておくことが大切だ（**図1**）。**3小節目【註】**は、オーソドックスなトライアドとは異なるコード・トーン・フレーズになっているため、フィンガリングが少し複雑になるので注意しよう。全体を通してインサイド・ピッキングとアウトサイド・ピッキングの両方が登場するので、実際に演奏する時にはミス・タッチに気をつけて、最後までオルタネイトをキープすることが大切だ。

図1　メイン・フレーズ1＆2＆4小節目のポジション

・Emトライアドポジション

◎トニック＝E音　△3rd音＝G音　□5th音＝B音

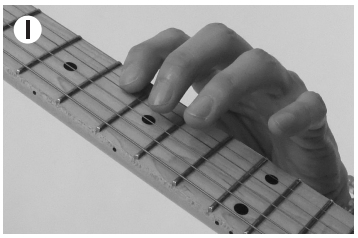


幅広いポジションになるので、3音1セットで覚えよう。

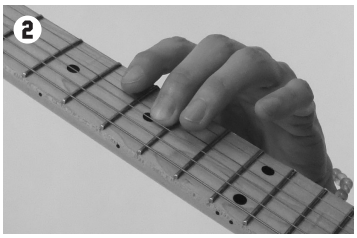
注意点2 左手

フレーズの流れを意識して指を的確に開こう！

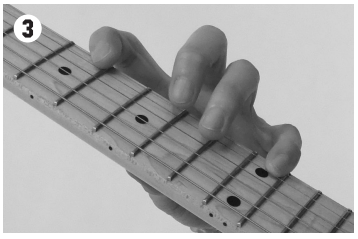
メイン・フレーズ1小節目4拍目～2小節目1拍目には、ワイド・ストレッチが登場するので注意が必要だ（**写真①～④**）。まず2小節目の1音目の1弦12フレット（E音）はEmコードのルート音になるので、しっかり発音するように心掛けよう。この時、小指（1弦12フレット）の移動と同時に、人差指も7フレット上で待機すると、そのあとのフィンガリングがスムーズになる。2小節目1拍目は12フレットと7フレットというワイド・ストレッチになるので、ネック裏の親指の位置を調整して、クラシック・フォームで指をきちんと開こう。フレーズの流れを意識しながら、左手を効率的に動かすべし！



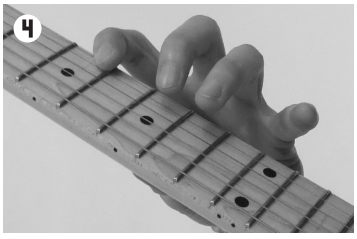
1小節目4拍目の2弦8f。続く中指の押弦を意識しておく。



3弦9fを中指で押さえる。直後のポジション移動にも注意！



1弦12fの押弦と同時に7f上に人差指を待機させると……



続く7fの押弦をスムーズに行なえるのだ！

～コラム12～

教官の戯れ言

著者が初めてマイケル・シェンカーのプレイを観たのは、実は日本のテレビ番組。その番組内で、彼はインプロビゼーションで弾きまくっていたが、ソロをグルーヴィに演奏していたのだ。その卓越したリズム感とタイム感に驚かされたことを、今でもよく覚えている。彼は、このメイン・フレーズのようなコード・トーンを活用したメカニカルなプレイはもちろんのこと、“泣き”のソロも印象的だ。そんな表現力豊かな彼のソロ・プレイは、必ずチェックしなくてはならない。まずは、エモーショナルなプレイが凝縮しているMSGとUFOのライヴ盤を聴いてみよう。

著者・小林信一、かく語りき マイケル・シェンカー編

UFO
『ライヴ』
1978年のライヴ音源。マイケルの熱く、そして表情豊かなプレイが満載の1枚だ。「ロック・ボトム」の躍動感溢れるソロは必聴！

ザ・マイケル・シェンカー・グループ
『飛翔伝説～MSG武道館ライヴ・完全版』
1981年の武道館公演のライヴ盤。初期MSGとUFOの代表曲を収録したベスト的な選曲だ。

【3小節目】3小節目のコード・トーンを具体的に解説すると、1&2拍目のF♯m7(♭5)はルート音+3rd音+♭5th音+7th音、3&4拍目のB7は3rd音+5th音+7th音+♭9th音になっている。